

14 株式会社 光合金製作所

COMPANY & PROFESSIONAL PICK UP!



ものづくりを通して社会の発展に寄与する。



COMPANY DATA



株式会社 光合金製作所 (かぶしきかいしゃひかりごうきんせいさくしょ)

【所在地】(本社)小樽市新光5丁目9-6 TEL/0134-65-0000 FAX/0134-52-1802
【所在地】(札幌営業所)札幌市手稲区曙3条3丁目6-8 TEL/011-683-3433 FAX/011-684-0420
【所在地】(函館営業所)函館市東山2丁目4-36 TEL/0138-56-3411 FAX/0138-56-3415
【所在地】(苫小牧営業所)苫小牧市緑町1丁目29-16 TEL/0144-34-3363 FAX/0144-34-3365

■事業内容 / 不凍給水栓と関連機器の開発、製造、販売
■設立 / 1947年
■従業員数 / 114名
■HP / <https://www.hikarigokin.co.jp/>



INTERVIEW | 代表取締役社長 井上 晃さん

Question1 どんな会社ですか？

弊社は、戦後間もない1947年に創業し、以来、寒冷地用給水装置の開発から生産、販売までを手掛ける一貫した専門メーカーとして歩んで参りました。

高度経済成長やオイルショック、安定成長時代後のバブル経済崩壊を経て、日本経済は一気にグローバル化し、リーマンショックなどの経験もいたしました。

その間も、地域と共に歩み、お客様の要望を生かし、商品開発を続けて参りました。

暮らし全般が豊かになるにつれ、水やエネルギーの安定は、当たり前のことであり、その用途は広がり、私どもの商品も広がりを見せています。

一方で、異常気象や地震、風水害など自然災害の発生が頻発し、非常時におけるライフラインの確保が大きな課題となっておりますが、現代の水道事情は、維持管理の時代に入っています。被害の最小化のための準備が、なかなか進まないのが実情です。

加えて、我が国、わが地域は、人口減少時代となり、成長一辺倒の思考から地域の特徴を生かした街づくりを指向することが求められています。

都市でも地方でも、もう一度「生きる力」をつけ直す時が来ていると感じています。

あらゆるもの「集積」は価値の増大をもたらしますが、「暮らしの安全」などの大切な事を見失わないように、バランスを取りながら取り組む姿勢がとても大事だと考えております。

私どもは、世界やアジア、日本の歴史に学び、できるだけ多くの人が、生き生きと笑顔で暮らすことができる地域づくりを、ものづくりを通じてお手伝いし続けることを考え抜いて参りたいと思います。



INTERVIEW

M.S. さん

年齢 / 29歳

HUMAN DATA

株式会社 光合金製作所
担当部署 / 設計部

勤続 : 6年目
出身 : 小樽市

Q1 | 入社を決めた
ポイントは?

『開発から販売まで一貫した事業』

子どものころからものづくりに興味があり、大学は機械システム工学を専攻。在学中に、ものづくりの上流工程である設計を仕事で、自分が設計したものが形になっていくところまで関わったという思いで就職活動をする中で、開発・設計から製造、販売までを一貫して行っている当社に惹かれました。水抜栓は寒冷地住宅に必要不可欠な「縁の下の力持ち」のような存在です。人々の暮らしを支える製品作りに自分も関わったいと入社を決めました。

Q2 | 担当している
仕事内容は?

『製品の設計・改良設計』

設計部は、新しい製品の設計や既存製品の改良設計が主な業務です。図面を書いて試作品を作り、実験・評価をして修正していく中で、自分が描いた通りの結果ができると達成感が得られます。また、基本的に設計はそれぞれ個人で行うので、その分責任重大ですが、自分が設計したものが製品になった時には大きなやりがいを感じます。設計をするうえで大切にしていることは営業部や製造部とのコミュニケーションです。製品づくりは設計だけでは成り立ちません。相手の意図をしっかりとみ取り、設計に反映させることを意識しています。

Q3 | 未来の新人さんへ
一言!

『自分に合った仕事を!』

知っている名前の企業や募集要項ばかりにこだわらず、就職活動はいろいろな企業を見て回ってください。また、就職してから「思っていた仕事と違う」とならないよう、採用担当者や先輩社員たちと触れ合って、会社の雰囲気やどんな仕事内容なのかを聞くことも重要だと思います。就職活動は、直接や企業訪問などで緊張する場面が多く、精神的にも肉体的にも大変だと思いますが、自分に合った会社を見つけるために頑張ってください。

TIME TABLE / ある一日の時間割



求める人物像

ヨットは向かい風のなかで、斜めでも前に進みます。いつも追い風とは限らない中で、まわりの変化に対応が求められます。しっかりと足をつけて、大切なことから外れず自身で次の一步を踏み出す「ちから」は、好奇心と向上心を持ち続け、素直に学ぶ姿勢から育まれていくと思っています。そこに個性が生まれ、魅力となり、得手不得手があってもまわりとカバーし合うことで個が生きる、そう思っています。最初から「完成版」なんてありません。悩み続けれてもへこたれない心、齡を重ねても、きっと「未完成」なんだろうと思います。

MESSAGE

会社からのメッセージ